

令和6年度第1回廿日市市保健福祉審議会 児童福祉専門部会 会議録（要旨）

◎概要

開催日時	令和6年6月18日（火）18：30～20：40
開催場所	山崎本社みんなのあいプラザ 3階 講座室
出席委員	西川部会長、山村副部会長、川本委員、大賀委員、眞部委員、松浦委員、宮武委員、空田委員、田畑委員、樋口委員、井場委員、満井委員、奥田委員、平野委員
欠席委員	なし
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 子育て担当部長挨拶 3. 委員紹介 4. 部会長及び副部会長の選出 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「こどもが主役のまち はつかいち宣言」について (2) 第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について (3) 第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の振り返りについて (4) 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査報告について (5) 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の施策体系（案）について 6. 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回廿日市市保健福祉審議会児童福祉専門部会次第 ・ 廿日市市保健福祉審議会児童福祉専門部会委員名簿 ・ 児童福祉専門部会運営規程 ・ 資料1 こどもが主役のまち はつかいち宣言 ・ 資料2 第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について ・ 資料3 第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画取組評価シート ・ 資料4-1 「第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査 結果報告書（案） ・ 資料4-2 「第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査 自由意見 結果報告書（案） ・ 資料5 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画 施策体系図（案）

◎会議内容（要旨）

1. 開会
2. 子育て担当部長挨拶
3. 委員紹介
4. 部会長及び副部会長の選出
5. 議事

(1) 「こどもが主役のまち はつかいち宣言」について

事務局	(説明)
部会長	子育てをしたいという雰囲気づくりはとても大切なことだと思っている。具体的にはどのような取組をしたらよいと考えているか。
こども課	具体的な施策はこれからであるが、こども担当部署だけでなく、他の部署や関係機関と一緒に考えていきたいと考えている。また、例えば、公園を整備するにしても、こどもの意見を取り入れて進めていきたいため、こどもの意見を聞く場を設定していきたい。
部会長	廿日市市の取組は結果が出ており、10年前からこどもの人数があまり減らなかったということは評価されることだと思っているが、これまでは、こどもが主役としたり、こどもを巻き込んだ政策が少なかったことは事実であり、知恵を出し合いながら、考えていきたい。

(2) 第2期廿日市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

事務局	(説明)
委員	教育・保育の質と量という言葉がたくさん出てくるが、量の部分があまり理解できていないため、説明をお願いしたい。また、質と量の話にかかせないのは、保育士の人材確保であると思うが、そういう項目が見当たらない。留守家庭児童会も同様に人材確保が必要だと思う。
部会長	<p>専門家として私から回答する。待機児童が多いのは1歳と2歳である。育児休業の最初の1年間は6割の給料が出るが、その後、保育園に預けて仕事復帰したいと考える方が多い。3歳以上で待機児童が発生することはほとんどなく、0～2歳の定員をまず確保しましょうということである。定員の数値目標を達成しているところとしていないところがある。現状として、4月時点では待機児童がいなくても、途中から入所するこどもが多いので、定員は余裕をもちたい。</p> <p>委員は、0～2歳の定員について十分と感じているか。</p>
委員	4月現在では足りていても5月以降も次々と申込が来ている状況である。
委員	1・2歳はいっぱいであるが、0歳には少し余裕がある状況である。こどもの年齢によって、保育士1人あたりが見ることができる人数は決

	<p>まっているので、定員の数値があがるということは人材が確保できているということであり、数値が伸びないということは人材が確保できていないということでもある。少子化もあるので、どこまで定員を増やすかということはある。ニュースでもあるように、出生率が芳しくなく、こどもの数については、この4、5年が正念場だと思う。</p>
部会長	<p>人材確保については、第3期に向けての課題になるのではないかと思う。</p> <p>数値目標26の「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」について、厳しい数字が出ている。委員はどう思われるか。</p>
委員	<p>このアンケートに回答した児童がどういう思いで夢がないと思ったのかは聞いてみないと分からないが、したいことが本当にな子もいれば、選択肢がたくさんあり、何したらいいか分からないという悩み中の意味で夢がないを選んだ児童もいるのではないかと思う。ここの数値をあげるために、キャリア教育でいろんな職業と出わせてあげたり、目標をもって様々なことに取り組ませたりしたい。夢や目標を持っていない子が必ずしも無気力というわけではないという気がしている。</p>
学校教育課	<p>補足すると、以前と比べて、学校にはいろいろな方に来ていただいて、いろいろな話を聴く機会が増えている。例えば、様々な競技のトップアスリートの選手から話を聞いたりしており、特に友和小学校ではドラゴンフライズの練習場が近くにあるので関係が深く、スポーツの面で夢を抱くきっかけにもなっていると思う。また、夢や希望をもたせることは学校教育の目標となっているが、夢や希望を与えるのは学校だけの仕事ではなく、周りの大人も与える存在になっていただきたいと思っている。今、コミュニティ・スクールといって、地域に開かれた学校にしていくことを国をあげて取り組んでおり、たくさんの地域の方に学校に関わっていただいている。部活の地域移行もそのひとつとなるが、今まで学校単位で活動していたものを地域の方と活動をしていくことで、いろいろな大人や世代が違う方との関わりが出てくるかと思う。そういった、様々な経験を通して、将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合が高くなるように頑張っていきたい。</p>
部会長	<p>保護者の方の意見も聞きたい。どのようにすれば夢や希望を持てるかと考えるか。</p>
委員	<p>保護者の立場からすると、こどもにいろいろな体験をさせてもらえたら嬉しいなと思うし、体験させてもらうことによって、こどもの選択肢が増えればいいなと思う。</p> <p>保護者クラブの代表として来ているので質問するが、保育士が担当するこどもの人数は決まり事で変更したりすることは難しいのか。</p>
部会長	<p>国が年齢によって基準を決めている。国は、保育士1人あたりの人数を減らす方向を考えているので、保育士はより必要になる。</p>
委員	<p>保護者アンケートをとると保育士と関わりを持っていないと感じている保護者が多いことが分かった。園での状況が分からないという声がある。</p>

	出ており、保育士ともっと連携出来ればと思う。
委員	個人的には夢や目標を持っている割合が100%でなくてもいいのではないかと思うが、夢でなくても憧れみたいなものであったり、夢中になれるものはあってほしいと思う。夢を見つけるための機会をつくることは大切であると思うし、親などが夢をつぶしていることもあるので、そうならないようにしたい。
委員	私たちがこどもの時にやっていたことが、今のこどもたちは出来なくなっているという話を保護者の間でよくする。例えば、放課後に運動場で遊んだり、通学路での地域との関わりが難しくなっている。公園でのボール投げも出来ず、こどもたちがしたいと思っていることもできないというのが今の環境である。大人がこどもに経験をさせていない。いろんな経験をする中で、自分にはこういうことが向いているのかな、こういうことが楽しいなということを見つけて、それを同じように楽しいと思える友達を見つけて共感し合って、何かにチャレンジして、成功体験を積むということは、今のこどもたちには大事であると思う。コロナの影響で我慢させたこどもたちがしっかり体験を積んで、自分が目指す夢や目標を持ってくれたらいいなと保護者として思う。コミュニティ・スクールの話もあったが、大人ができることはたくさんあるはずであり、この計画の中に盛り込まれていったらいいと思う。

(3) 第2期廿日市子ども・子育て支援事業計画の振り返りについて

事務局	(説明)
部会長	第2期事業計画の特徴は、ネウボラの推進、発達が気になるこどもたちの支援、留守家庭児童会の体制を整えること、保育のICT化だと思っている。ネウボラ等の状況や発達が気になるこどもへの支援については委員から聞きたい。
委員	私は主任児童委員をやっており、例えば、産前産後サポートセンターで行われているイベント(母子手帳カバーアート事業や産後ヨガ)の手伝いを通して、母親や赤ちゃんと交流したり、園庭開放に一緒に行ったりしている。最近民間の保育園も増え、私もよく状況が分からない。もっと情報をオープンにさせていただき、連携してやっていきたい。
委員	児童発達支援センターでは、保育園等を巡回して施設支援したり、保育士対象の療育支援の研修を行ったりしている。施設支援は年間2・3回しかできておらず、回数を増やして欲しいというご要望をいただく。施設支援の充実が発達が気になるこどもへの支援の1つの方策だと考えている。小さい時からよりよい支援を受けていれば、こどもは生きやすく、小学校での支援にもつなげることができる。施設支援の回数を増やすためには、施設支援にあたる職員の確保が必要である。新しい職員を雇っても次の日から支援できるわけではなく、支援できる職員を育てる必要がある。障がい関係の報酬は日割り計算で、例えば、コロナでこどもが休みの場合は収入が減るが、休みだからといって職員を休みに

	<p>するわけにもいかないという運営上の問題もある。昨年の8月8日の児童福祉専門部会でも提案とお願いをしたところではあるが、保育士の方が勉強しながら日々実践できるような環境を整えるためにも、行政として人材確保の必要性を認識していただいて、予算措置をしていただきたい。3月の中国新聞に掲載されたが、東広島市では発達の遅れや貧困等の複合的な問題に対応する相談員を新たに配置している。また、福山市でも同様な対応をしていると聞いている。是非、次の計画策定の中で施設支援にあたる人材をどう確保するか考えていただきたい。</p>
部会長	<p>療育支援の研修は充実してきたところであるか、巡回して支援して下さる方の人材確保も必要である。</p> <p>保育と幼児教育の質向上のために、どのようなICTの取組が有効と思うか。今、やられているICTの取組について教えていただきたい。</p>
委員	<p>アプリを導入していて、お便り・出欠・バス・預かり保育・アンケート等、様々な場面で活用している。印刷のコスト削減や事務削減につながっている。また、ホームページやInstagramで日々の様子を伝えている。家でのお子さんとの会話が弾むきっかけとなっており、保護者に喜ばれる。ただ、ICTを万能だと思って使うのではなく、どういう効果があるのか検証しながら、適切に使っていくことが大切である。ICTに限らず、園と家庭が連携していくことの重要性を実感している。</p> <p>資料には表立って出ていないが、民間の園なので、少子化の流れには神経を使っている。園児が減少した状態で何が出来るか、日々考えている。就労支援にも力を入れているが、実は、親はゆったりとした保育を求めているのではないかと考えており、幼稚園だからこそできることなので、やっていきたい。ゆったりとした保育は親の満足度や充実感が高いだけでなく、職員の満足度もあがり、職員の離職率0%につながっていると思う。しかし、少子化でこどもが集まらなければ、幼稚園文化は衰退していく。1人あたり月額25,700円の無償化の単価をあげるなど、民間の頑張っている園に支援していただきたい。</p>
部会長	<p>その他、質問等はあるか。</p>
委員	<p>基本方針1、②子育て家庭を支える、「幼稚園、保育園のほか、認定こども園、地域型保育事業など、保護者の多様なニーズに対応した教育・保育サービスの提供」の今後の方向性を書いてあるとおり、待機児童の解消が進み、定員に対して空きが発生している保育施設もある。民間なので、定員に空きがあるということは、その分の運営費が入らないということである。この点に関しては、昨年度から定員払いという形で行政から補助をもらっており、ありがたいと思っているが、少子化が進む中で、どのようにしていくか考える必要がある。例えば、留守家庭児童会に関して、小学校にあがるタイミングで問題があると聞く。3月31日まで保育園にいたこどもが入学式をまだ迎えない中、4月1日から全く違う環境にさらされ、こどもの不安が大きくなっている。そういった問題を解消していくために、私立の保育園の中に民間の児童会が運営</p>

	<p>できるような環境や体制を行政として進めていくということであれば、「こどもが主役のまち はつかいち宣言」の取組の1つのアイデアとなり得るのではないかと考えている。</p>
こども課	<p>留守家庭児童会のニーズは高まっており、これから力を入れていかないといけないと考えている。現在、各小学校に市が運営する17の児童会に加えて、民間の児童会が4施設ある。民間の児童会は令和3年度から1つずつできており、保育園を運営している事業者が運営している。保育施設から留守家庭児童会へ転用できるか確認しないといけないが、手厚く保育するという面でも1つの案であると考えている。</p>

(4) 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査報告について

事務局	(説明)
部会長	<p>少子化は今後の大きなテーマとなるが、対策は、ワークライフバランスの推進と人材育成だと思っている。女性は旦那の年収よりも旦那の育児や家事を理解し、一緒に取り組んでくれることを大切にしていることが様々な論文で言われており、アンケートの結果報告書の35ページにもあるように、子育てと仕事が両立できていると感じるのは、夫婦で役割分担ができていたという理由が圧倒的に多い。ワークライフバランスの推進について、商工会議所等で取組があれば、教えていただきたい。</p>
委員	<p>商工会議所は経営者の集まりであり、経営者にとってワークライフバランスや働き方改革は敵であるが、コロナが落ち着いたころから、働き方改革等が進んでいないと人材が確保できない状況となっていることを経営者も認識している。商工会議所としてワークライフバランス等の啓発に努めていきたい。</p>
部会長	<p>ワークライフバランスの考え方は小学校や中学校の家庭科の授業の中でも学ぶ必要があると思う。</p> <p>アンケートの中でも意見が多かったのは病児保育である。地域間格差もあるようであるが、委員はどのように思うか。</p>
副部会長	<p>病児保育の目標が人数で設定されているが、人数が多ければいいということではない。廿日市市は1か所しかないので争奪戦になっている。病児保育施設は子育てと仕事を両立していくための大切な施設だと思っており、どうにか施設を増やすことはできないか。また、アンケートによると病児保育を知らなかった人がいることが分かるので、しっかりアピールしていかないといけない。こどもが病気の時に預けたくないという意見もあり、施設を増やすだけでなく、休みを取りやすい職場環境も大切である。</p>
部会長	<p>第3期計画は貧困も大きなテーマとなると思う。今回、初めて、ヤングケアラーについての項目をアンケートに加えたが、廿日市のヤングケアラーの割合は全国と同水準の5%くらいとなっている。具体的なサポートはこれから考えていかないといけないと思う。ヤングケアラーの</p>

	事例などを知っていれば教えていただきたい。
委員	母子生活支援施設には、DVや虐待で県外から入所されている母子が多いが、退所した時に廿日市に住むことを選択する家庭が多い。今日の会でも感じているが、たくさんの方が廿日市市と一緒に安全な環境を整えている結果だと思う。実際、施設の中には小学生だけ下の兄弟の面倒を見ていて学校に遅刻気味の子がいたりするが、ヤングケアラーは不登校とも関連があると思う。今回のアンケートには不登校に関するデータはなかったので、廿日市全体の状況等が気になる。不登校になった場合でもICTツールを使って、教育の機会を確保していただきたい。また、ICT化の中には就学前から小学校にあがるまでの連携も含まれていると思うが、どのような連携となるのか気になっている。
部会長	これから事務局がアンケートの分析や課題の抽出を行い、次の部会では、その内容を踏まえ、取組内容や数値目標を議論することとなる。時間が押しており、細かい質問はその時に行っていきたい。

(5) 第3期廿日市子ども・子育て支援事業計画の施策体系(案)について

事務局	(説明)
部会長	取組内容等が分からないと質問や議論も難しいと思うので、次の部会でさらに詳しい内容を見ながら議論していきたい。